

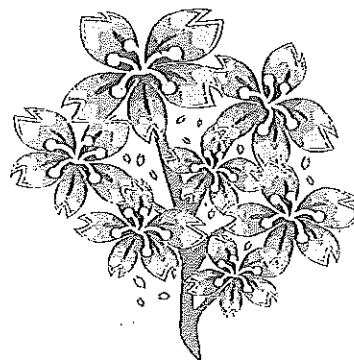
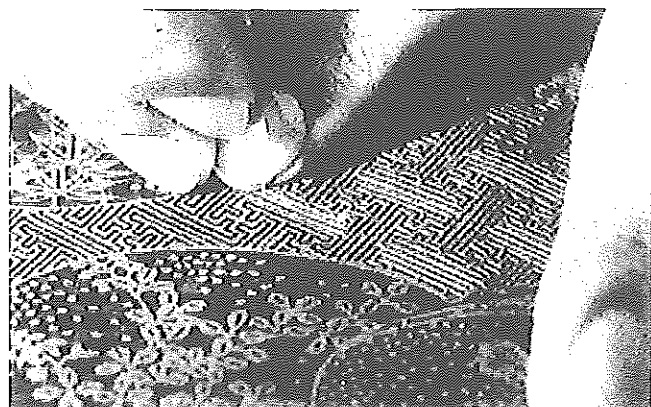
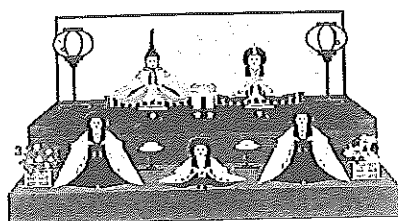
伊勢型紙

伊勢型紙とは、小紋、友禅、ゆかたなどの柄や文様をきもの生地に染めるのに用い、美濃和紙を柿渋で貼り合わせた紙(型地紙)に周刻刀で、細かくて精緻な柄を丹念に周りにぬいたものです。

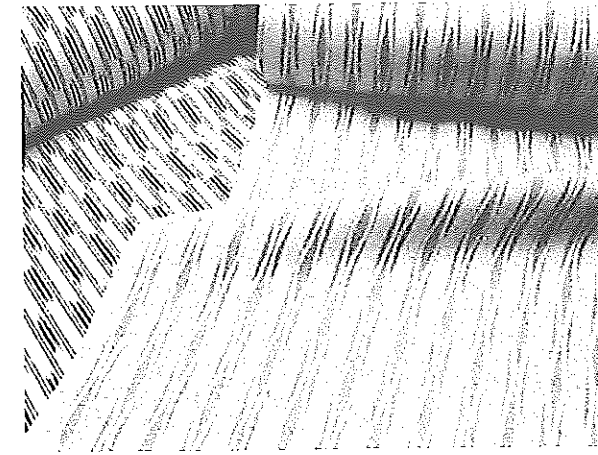
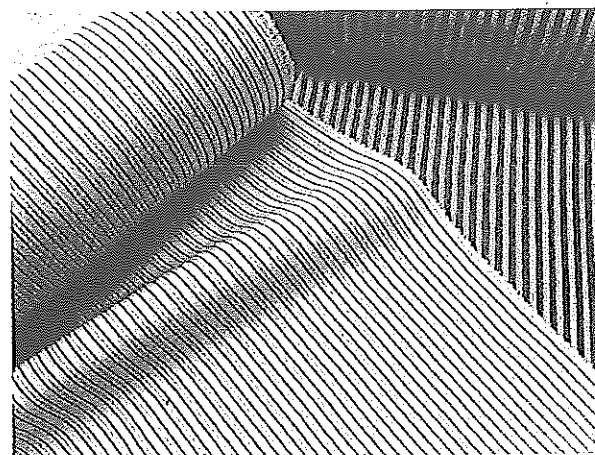
伊勢型紙はその99%を三重県鈴鹿市で生産されており、千有余年の歴史を誇る伝統的工芸用具です。

型紙が染めの型紙として一世風靡したのは、江戸時代に入ってからで、各藩の大名、武士の袴(かみしも)にはじまり、町人文化が花開く江戸中期には爆発的に需要が伸びて、伊勢型紙は飛躍的な発展を遂げました。

細かいものだと3センチ四方に900粒以上という細かな模様群が周られた伊勢型紙。目にする人々には人間技とは思えない緻密さと美しさに歓声をあげることも多いはず。



西陣お召(おめし)



そもそも「お召」は、京都の西陣で300年ほど前からつくられていた布です。徳川11代将軍家吉が好んで着用したのが「お召」の呼称の所以であるとか...

お召と呼ばれる反物の条件は、(1)まず織る前に糸を染めた先染めであること(2)緯糸に「お召緯(おめしぬぎ)」という1×1に2500~3000回転をかけた強撚糸を使用すること(3)同じ回転数の右撚りと左撚りのお召緯を交互に同数ずつ織っていること。この3点を約束としています。むずかしいですね!

大正・昭和初期頃は、山の手の奥さまやお嬢さんたちのお出かけ着として活用されてきました。現在も着やすさや手軽さから、「お召」を好まれる方が年々増加傾向にあります。

J・T・C

会員募集

毎月2,000円からのお得な積立
成人式までに少しずつでも貯めておきませんか?
詳しくはスタッフにお尋ね下さい!